

薬剤耐性菌(AMR)対策



薬剤耐性菌とは、感染症の治療に使われる抗菌薬(抗生物質等)に抵抗性を持つ菌のことです。薬剤耐性菌が増えると、治療のために処方した抗菌薬が効きにくくなり、治療に影響することがあります。

薬剤耐性菌を増やさないためには、人と同様に、動物病院から処方された抗菌薬を必ず獣医師の指示どおりの用法用量で飲ませることが大切です。

薬剤耐性菌を人からペットへ、ペットから人へ広げないためには、他の人と動物の共通感染症と同じように口移しや食器の共用をやめ、ペットや排泄物に触れた後の手洗いをすることが大切です。ペットに生肉を与えることはせず、十分に加熱しましょう。

エキノコックス症



日本では北海道のキタキツネが主な感染源で、ほとんどが北海道での発生ですが、近年、北海道以外でも感染源が存在する可能性があり注意が必要な感染症です。

人には、虫卵に汚染された土や水から手を介して、その虫卵が口に入ることで感染します。キタキツネの糞中に混じるエキノコックスの虫卵が主な感染源ですが、感染したネズミを食べるなどして犬も感染し、犬の糞からも感染するおそれがあります。人の場合、体内に入ったエキノコックスは肝臓などで増殖し、感染後数年(成人では通常10年以上)も経ってから症状が現れます。肝臓などに重篤な症状が引き起こされる恐ろしい病気で、確立した治療法はなく外科的に切除するしかありません。そのため予防が重要になります。

犬はネズミを食べることで感染するため、犬の放し飼いをやめましょう。野山に出かけた後は、手をよく洗いましょう。山菜や野菜、果物等もよく洗ってから食べましょう。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)



マダニに咬まれて感染するウイルスの病気です。感染した野生動物を咬んだマダニに、人や犬猫が咬まれて感染します。

人が感染すると発熱やだるさ、意識障害、出血などの症状が現れ、重症化すると死亡することもあります。特に高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。感染して発症した犬や猫の血液などからも、人に感染することが報告されています。国立感染症研究所の研究によると、日本のSFTS患者の致死率は約30%と高く、感染者の確認数も増加傾向です。また確認地域は西日本が中心ですが、徐々に東日本へと広がってきています。

感染を予防するためには、野外の草むらなどに行く際は肌を露出しないようにし、ペットにもマダニ駆除剤や防虫剤を使用して、マダニに咬まれないようにしましょう。犬や猫に感染した場合、特に猫は重症化することが知られていますので、室内飼いを徹底するようにしましょう。

もしもコロナに感染してしまったら

新型コロナウイルス感染症は、人の感染症ですが、元々保有していたのは、コウモリなどの動物と考えられています。これまで、感染した人から、飼っていた犬、猫、ミンクなどの動物への感染事例が報告されています。感染した犬や猫から人への感染は報告されていません。猫は、他の動物種よりも感受性が高いとの報告があり、実験室内での感染実験では、猫が他の猫に感染させ得るという結果が報告されています。

飼い主自身がコロナに感染しないように気をつけることが、ペットのためにも最も重要です。もし感染してしまったら、ペットとの接触はさげ、世話を家族や他の人、預かり施設などにお願ひしましょう。

